

紀行文

今井俊子

〜原口泉教授と行く〜

霧島神宮・鹿原島神宮・高屋山陵を旅する

九月十日(土)

日本はどのような国として誕生し、どのような国を造っていったのか、その謎を解く旅を度々行つて来ましたが、今回は原口泉教授の「案内で二つの神社と二つの山陵を巡りましたので、ご紹介したいと思います。」

原口教授の豊かな知識は古代ロマンへの誘いとなり、古事記や日本書紀の世界へ興味をつなぐ確かなものでした。先生のお話と古事記、日本書紀からまとめてみました。

天照大神から勅書を賜ったニギノ命は高千穂峰に天降り、「ここは韓国に向かひ、笠沙の岬に真来通りて朝日の直刺す国、夕日の火照る国、いとよき地なり」と言い、山頂の辺りに宮殿を建てました。これが霧島神宮のはじまりです。最初の宮殿は六世紀頃に建てられ、お鉢の辺りに「元宮」という場所にあたります。しかしその後の噴火で焼失し、鎌倉時代に性空上人が再建したのが高千穂河原の「古宮址」です。しかしこれも室町時代の噴火により焼失。島津十一代忠昌が文明十六年(1484)再建するも、江戸時代の宝永二年(1705)に焼失。正徳五年(1715)島津二十一代吉貴が現在地に建立しました。溶岩の上に建てられた霧島神宮は、正面から勅使殿、拜殿、登廊下、幣殿、本殿と並び形で造られ、奥の方にそびえる高千穂峰と一直線につながるように造られています。私達は令和四年二月九日

「国宝」に指定された「本殿、幣殿、拜殿」の内、拜殿への特別拝観が許されました。拜殿から観る幣殿の内部は染を奏でる天女たちが彫刻され、左右二本の龍柱は炎が激しく燃え、二頭の龍が天上にかけ上がる炎をくい止めるように配置され、すべてが極彩色で力強く描かれて、往時の色絵がそのままに残されています。彫刻、漆塗り、朱塗り、極彩色の絵画などは全国屈指のものとされ、中国や琉球の影響を感じることが出来ます。龍柱から奥は御簾がかけられ、赤い扉の先は本殿で残念ながら観ることは出来ませんが、中は極彩色の目をむいた獅子、天女、雲などが今にも動き出しそうに描かれ、振り返った壁には、こちらも極彩色のボタンの花々が咲き乱れるように彫刻され、天上の神々しさが伝わってくる。と聞いています。

霧島神宮の御祭神はニギノ命で、日本書紀に「天饒石国饒石天津日高彦瓊瓊杵尊」と記されています。天も地も共に豊かでにぎやかである、という意味です。

古事記によるとニギノ命は妻を娶るため、笠

沙に向います。ある日のこと美しい女性に出会います。この女性に一目惚れしたニギノ命は早速求婚します。この女性が「木花咲夜姫」です。ニギノ命と結婚した木花咲夜姫はホデリ、ホスセリ、ホオリの三つ子の男子を産みます。古事記ではホデリが海幸彦、ホオリが山幸彦の神話で登場します。(海幸彦を隼人、山幸彦を大和朝廷として描き、兄の隼人が弟の大和朝廷に従属していく過程を表わしています。しかし元は同じ民族なのだよ、とも書いています。)

弟の山幸彦は兄の釣り針を捜しに海の中に行つたところ豊玉姫という美しい女性に出会い結婚します。ある日豊玉姫が懐妊したことを聞かされた山幸彦は急いで鶴の羽で書いた産屋を建てようと思いましたが、間に合わず豊玉姫は出産します。山幸彦は又の名を「ホホアミノ命」といいます。生まれた子はウガヤフキアエス命と名付けられ、豊玉姫の妹の玉依姫に育てられます。成人したウガヤフキアエス命は玉依姫と結婚して、初代天皇となる「カムヤマトイワレ」(神武天皇)をもうけました。

「ホホアミノ命を祀るのが「鹿兒島神宮」で、霧島神宮が国宝に昇格されたのを機に国の重要文化財に指定されました。鹿兒島神宮は大隅正八幡宮とされ、島津家が崇敬した朱塗りの壮麗な社殿がひときわ目をひきます。

二月の初午祭では鈴をつけたシャンシャン馬が足を跳ねながら踊るので有名ですが、十月の「浜下り」は大和朝廷に滅ぼされた隼人を悼む



霧島神宮社殿



霧島神宮本殿外観

神事であり、一見の価値があります。浜下りの行列の最前列を白い水干姿に烏帽子をつけた神官たちが神輿を



運び、その後には旗持ち、笛吹き、獅子舞と続き、隼人塚まで進んで行きます。隼人塚は石造りの五重塔が三基たっている国指定史跡です。高さ五〜六メートルあり、四方には四天王像を配置し、ここで神舞が披露されるのです。隼人を供養する神舞は京都府綴喜郡田辺町の月読神社でも行われています。この田辺一帯は大昔隼人の住んでいた地であつたといつていいです。



ヒコホデミノ命の陵(墓)は溝辺町の高屋山陵で、まんじゅう型のこんもりした森深く深閑とした荘厳さが感じられました。江戸時代の高屋山陵は大隅国肝属郡の国見山頂と考えられていたそうです。二ギノ命の山陵は薩摩川内市の可愛山陵。ウガヤフキアエズ命は鹿屋市の吾平山陵。この三つを神代三山陵と呼び、明治七年明治政府が治定しました。鹿児島県には神代三代にまつわる史跡が数多くありますが、それらを一つ一つ訪ねてみることに、私達の日本がどのように誕生

していったかを知ることが出来るのではないのでしょうか。来年も未だ〜一緒に旅が続きますね。

〜吾平山上陵と黒毛和牛と南風ガーデン〜

十一月十二日(土)

吾平山上陵はうがたれた洞穴を自然な形で利用したウガヤフキア



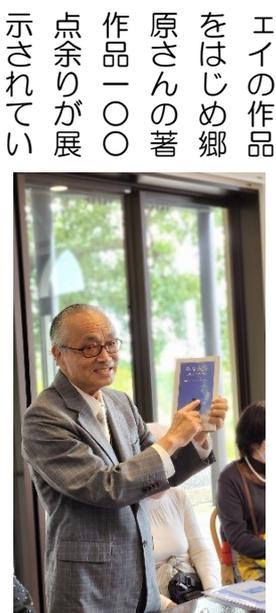
エズ命の陵で、清らかな始良川は伊勢神宮の五十鈴川に例えられ、小伊勢と呼ばれます。ウガヤフキアエズ命については、前段の紀行文の中で触れておりますので、割愛させて頂きます。

今年には五年に一度の和牛オリンピックの年。大隅半島は黒毛和牛の一大生産地です。バスツアー「吾平山陵と郷原茂樹さんの南風ガーデン」での昼食に黒毛和牛を楽しんで頂くこと、肝付町の新村畜産を選びました。フィレステーキにたっぷりの野菜を添えて、おまけに色々な種類のバイキング料理など盛り沢山の料理に大満



足の皆様でした。

南風ガーデンは夕陽が開聞岳の方向に沈む絶好のロケーションです。「郷原茂樹の南風図書館」は照葉樹林を背景に建てられ、ヘミングウェイの作品



をはじめ郷原さんの著作品一〇〇点余りが展示されています。庭にはエルビス・プレスリーの木、竹下景子さんの椅子テーブルなど郷原さんの生き方そのもののユニークさがあふれて面白い場所です。南風ガーデンハウスの下に広がるガーデンでは「コロナ退散のおまじない祭り」や育てているハーブのお茶、絶品のさつま芋のモンブランなど供され、又行きたくなる素敵なお場所でした。

〜鶴の飛び立ちと斉彬公の出水干拓地〜

十二月十日(土)



中央駅朝五時出発の弾丸ツアー。午前七時に鶴が家族で、恋鶴?でえさ場に「クルッ」と鳴き声をあげながら、一斉にねぐらを飛び立つのを観るために。一番早起きなさつた方は午前二時だったそうです。鶴は万葉集にも数多く詠まれており、日本各地に

次頁に続く

前頁より

飛来していました。しかし今は鶴にとつて安全な場所は出水しかないのです。鶴の越冬地は干潟だった現在の荒崎を干拓地とするよう島津斉彬が命じたことにはじまります。現在では鶴や野鳥の生態系を守るために荒崎・西・東の三区域の478ヘクタールが2022年11月にラムサール条約に認定されています。私共は飛び立ちを観たあと、干拓の史跡、島津樋門・島津橋など見学しました。



早朝の鶴観察

島津樋門・島津

編集後記

記念すべき十号です。全く成長しなかった誌面ですが、出せたことが喜びです。「コロナ禍で思うような活動は出来ていませんが、ご参加の皆様が充分な対策で、結構強行突破みたいなこともありました。今後ともご協力ご支援お願い申し上げます。

編集責任者 今井征男

2023年度の事業カレンダー

カテゴリー	回	月	日	曜	カテゴリー	テーマ
歴史よもやま話		10:00~11:40		会場	市福祉プラザ 4F 小会議室	資料代 200 円 要予約 27 名限定
	前	1	26	木	歴史よもやま話	税所敦子~~島津登志子さん講座~~
	前	2	9	木	歴史よもやま話	乃木希典の妻・静子
	前	3	23	木	歴史よもやま話	大山巖
	1	4	27	木	歴史よもやま話	東郷平八郎 後編
	2	5	25	木	歴史よもやま話	島津家と近衛家
	3	6	22	木	歴史よもやま話	島津義久生誕480年
	4	7	27	木	歴史よもやま話	薩摩の豪商たち
	5	8	24	木	歴史よもやま話	大隅の古墳群
	6	9	28	木	歴史よもやま話	神代三山陵
	7	10	26	木	歴史よもやま話	豊玉姫と玉依姫
	8	11	30	木	歴史よもやま話	霧島六社権現
	9	12	7	木	歴史よもやま話	大江戸の中のさつまの姫君
	10	1	25	木	歴史よもやま話	~~島津登志子さん講座~~
	11	2	15	木	歴史よもやま話	西南戦争で散った若者たち
	12	3	21	木	歴史よもやま話	西郷の妻・愛可那とイト
街歩き		10:00~12:30		会費 1,000 円(資料代、保険代含む)		2 日前までに要予約 15 名限定
	前	3	16.18	木・土	第 73 回街歩き	福昌寺墓地巡り・島津家700年の眠り
	1	4	20	木	第 74 回街歩き	金生町・いづろ・大黒様めぐり
	2	5	18	木	第 75 回街歩き	照国神社と三公銅像
	3	9	21	木	第 76 回街歩き	西郷さんを偲んで城山洞窟・終焉地・銅像を歩く
	4	10	19	木	第 77 回街歩き	玉里島津邸と鹿児島工業高校
	5	11	23	木	第 78 回街歩き	梅ヶ淵観音と不動尊
	6	12	2	土	第 79 回街歩き	桐野利秋と西南戦争の若者たち
	7	3	16	木	第 73 回街歩き	アリーナから小松帯刀別邸跡まで
バスツアー	前	3	25	土	古事記シリーズ	可愛山陵と江口橋・北郷墓地

来年度 只今計画 中 乞うご期待!

12/21(水)現在の予定表です。変更になる場合がありますのでご了承ください。